



# 部族民通信Youtube 人類学講座

2025年10月

~2026年7月

クロード・レヴィ・スト  
ロース著

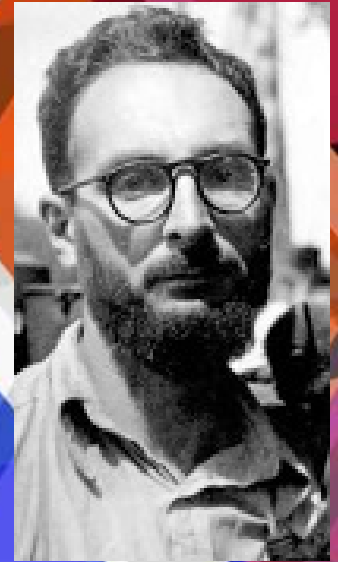
野生の思考

La Pensée Sauvage

歴史と弁証法 Histoire

et dialectique

サルトル弁証法批判 II



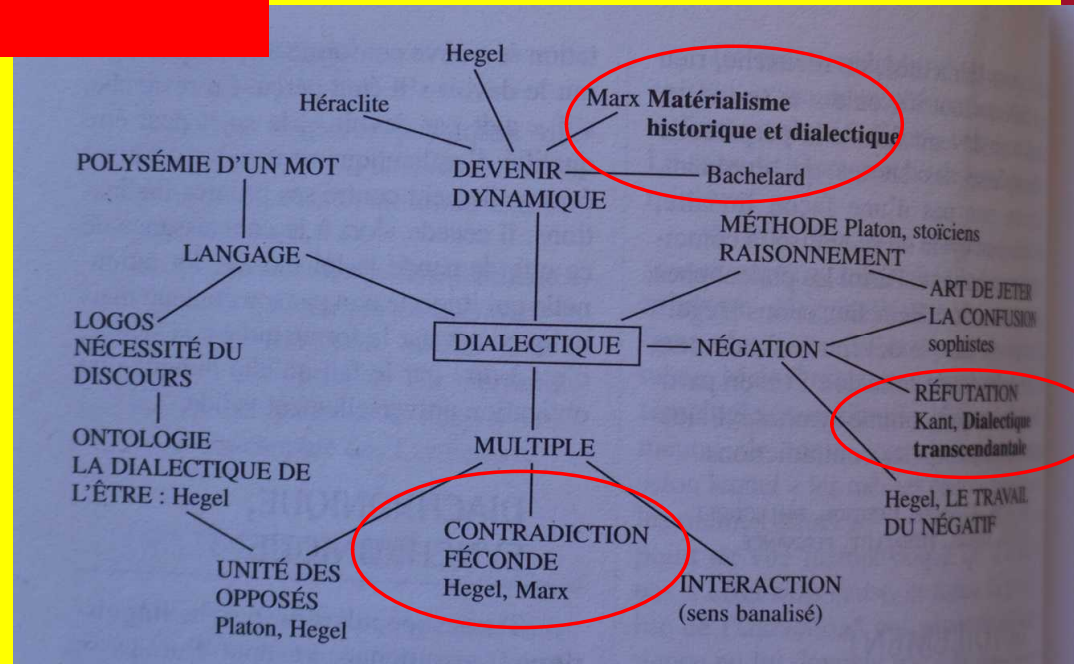
Claude Lévi-Strauss  
1909~2009  
(Bororo族調査時、1936年)

# 野生の思考 La Pensée Sauvage Histoire et Dialectique

中央の弁証法が四方に枝分かれする。上下には参考スライドとマルクスが並ぶ（赤丸）。上はdevenir dynamique（サルトル批判）躍動する成り行き、マルクスには唯物歴史弁証法の最終頁注釈。下の赤丸にはContradiction Féconde 間断ない反対とある。これは唯心（ヘーゲル）唯物（マルクス）の差を認めるものの、一の真理が提出され、否定してたな真理に向かう変遷を原理として示している。

« Marx acceptera dialectique hegelienne, mais il en inverse le sens, descendre du ciel sur la terre »  
(同辞書の説明文)

はマルクス弁証法はヘーゲルの方向（ヒト精神が弁証法思想を展開する）を逆転し、天から地上に舞い降りたとの注釈です。神でもなければ歴史進行の原理を決められない。古代奴隷制から共産社会に向かう「歴史弁証法」は神の摂理で、必然として神弁証法の調和が成就する。サルトルの語る神の弁証法の表現はマルクス思想を移入したと分かる。カントは右（青丸）に位置する。Réfutation 理性としての否定が注釈される。



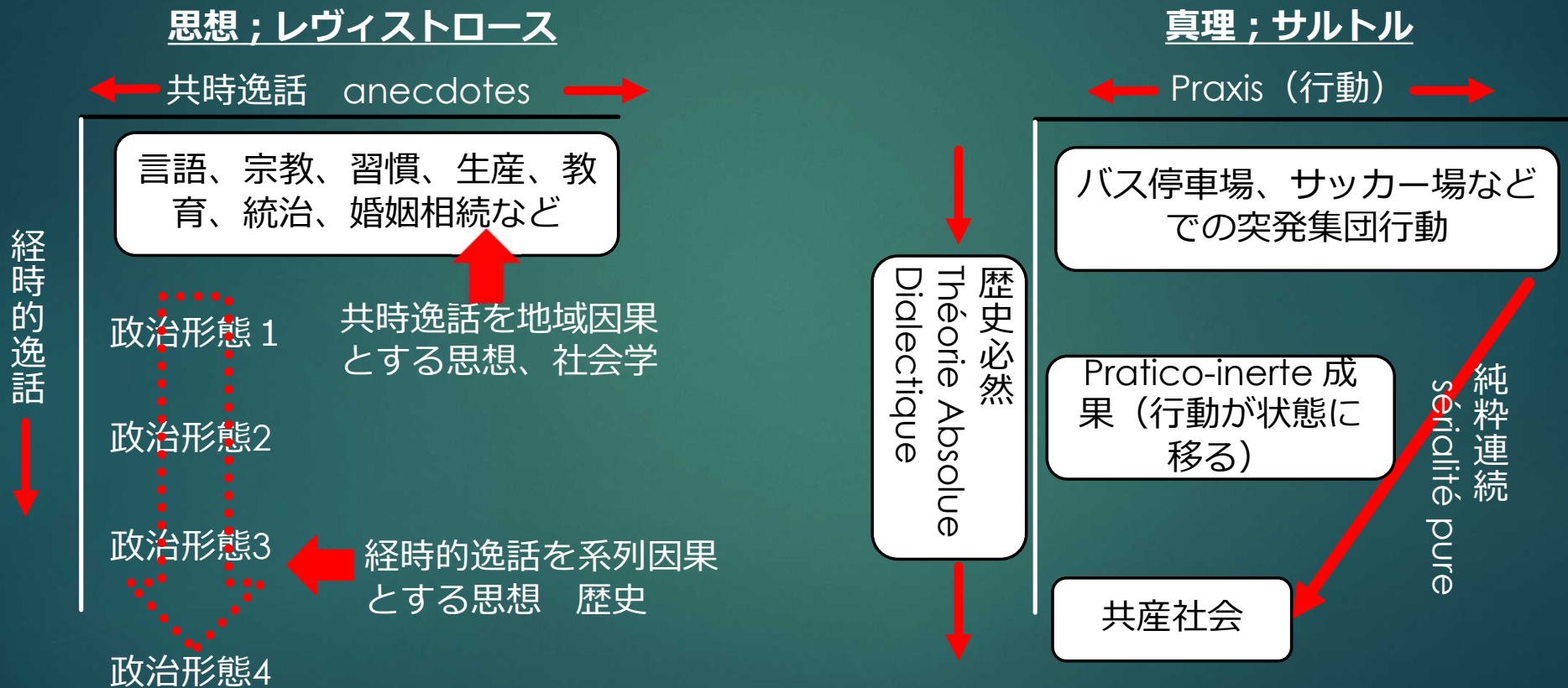
(写真はDictionnaire de Philosophie Nathan版、110頁)

参考スライド  
サルトル批判の初版  
スライド

# 思想か真理か Pensées Sauvages 第9章の省察 3

地域因果と系列因果

歴史必然における純粹連続



« Dans le vocabulaire de Sartre, nous nous définissons comme matérialiste transcendantal et comme esthète. Matérialiste transcendantale, puisque la raison dialectique n'est pas pour nous autre chose que la raison analytique, et ce sur quoi se fonderait l'originalité absolue d'un ordre humain, mais quelque chose en plus dans la raison analytique : sa condition requise, pour qu'elle ose entreprendre la résolution de l'humain en non humains » (page 294)

## 野生の思考 La Pensée Sauvage 具体科学 Science du Concret

« Dans le vocabulaire de Sartre, nous nous définissons comme matérialiste transcendantal et comme esthète. Matérialiste transcendantale, puisque la raison dialectique n'est pas pour nous autre chose que la raison analytique, et ce sur quoi se fonderait l'originalité absolue d'un ordre humain, mais quelque chose en plus dans la raison analytique : sa condition requise, pour qu'elle ose entreprendre la résolution de l'humain en non humains » (page 294)

サルトルの定義では我々（レヴィストロース本人）は先験的唯物論者であり、耽美主義でもある。なぜ先験的唯物論者なのか、なぜなら我々にとって弁証法は分析理性にしか過ぎない、それが揺るぎない人の独自性の基盤であって、元々の分析思考にちょっとした味付け（quelque chose en plus）を加味するにすぎないからだそう

だ。  
この味付け具合によって、ヒトとしての解決を非ヒトの世界に持ち込むことに繋がる（レヴィストロースが語る弁証法は分析理性なるものに味付けをしただけの代物とサルトルが指摘）。

野生の思考 La Pensée Sauvage  
Histoire et Dialectique

部族民：先験的唯物論者を字面通りに理解すると「唯物、モノが主体」とし「先験、出会う前にモノを知っている」の意味となる。この文言は二律背反となる。レヴィストロースは敢えてサルトルの矛盾文言を出したのだろう。引用の前に「分析理性は怠惰な理性」とサルトルが批判するとの一文が置かれるのもその証左。

それらの弁証法は「分析理性にちよいとされた何か」を加えるにすぎない（サルトルの弁）。「弁証法は神の摂理」と信じる側から、カントréfutationの流儀で弁証法を捉えるレヴィストロースへの批判と理解できる。

レヴィストロースからの反論はいかがであろうか；

レヴィストロースからの反論はいかがであろうか；

« La valeur éminente de l'ethnologie est de correspondre à la première étape d'une démarche qui en comporte d'autres, par-delà la diversité empirique que des sociétés humaines, l'analyse ethnographique veut atteindre des invariants, dont le présent travail montre qu'ils se situent parfois au point les plus imprévus » (page 294).

民族学の卓越した価値は、最初の一步を築き、人間社会の多様性を見出すことで、後に一步の成果が継続するところにある。民族学の分析手法が、様々な変異に対応することとなる。今進めている研究がそれら変異の、予測もしなかった地点に到達を知らせることになる。

野生の思考 La Pensée Sauvage  
具体科学 Science du Concret

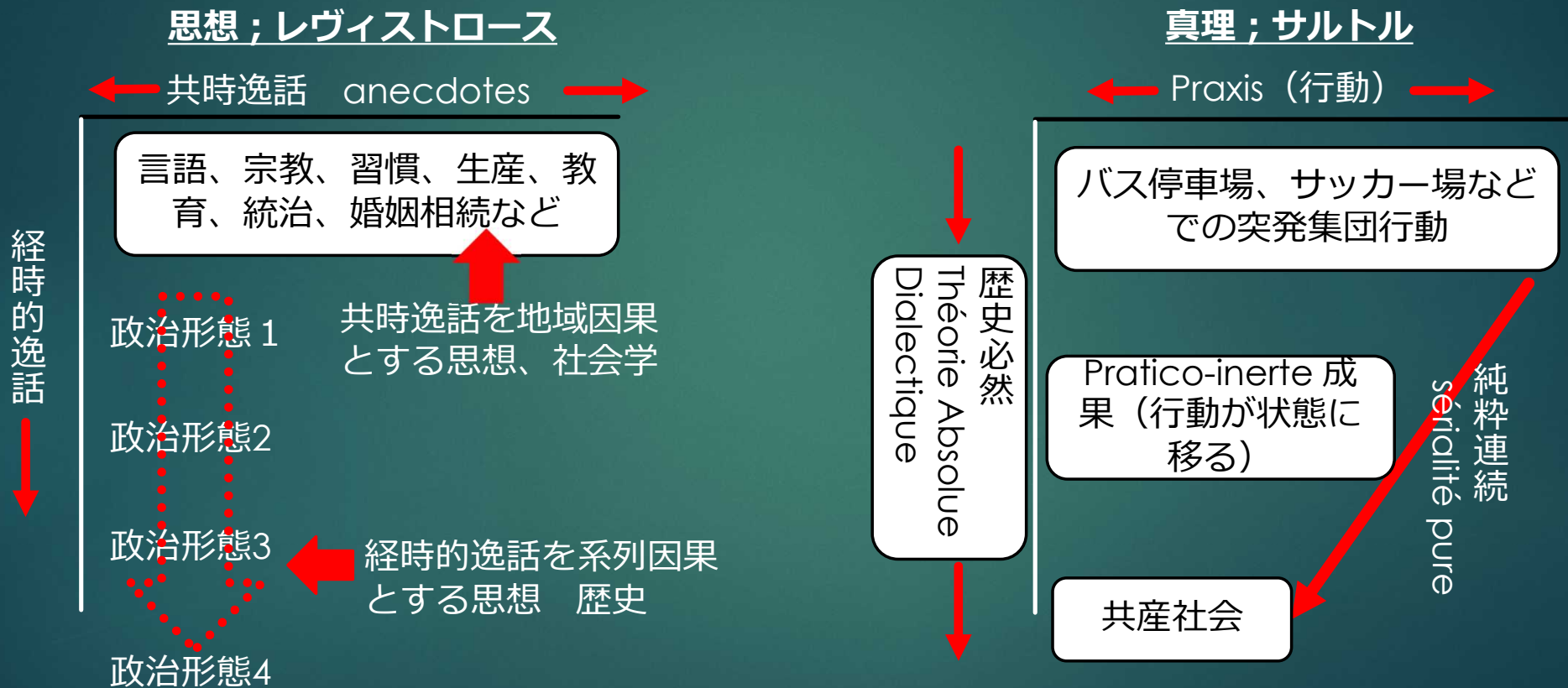
部族民：サルトルへの反論が凝縮した文です。まずとある未開社会を調査し、主題ごとに分析結果を示す。未開社会はそれぞれが性状を別の様相として表し、その多様性を、変異としてまとめる。すると不測の結論に至るかもしれない。ここには分析理性と弁証法理性が共生する。結果として新しい知見が広がる。この知見とは経時的逸話処理（歴史）にも応用できる。

参考スライド  
サルトル批判の初版  
スライド

# 思想か真理か Pensées Sauvages 第9章の省察 3

地域因果と系列因果

歴史必然における純粹連続



## 野生の思考 La Pensée Sauvage Histoire et Dialectique

### 出生コホート

英国の人生調査、1946年に始まった

その年特定月に、連合王国で、生まれた全員を調査対象とする

10年ごとに再調査する。出生の環境、育った家庭、個人部屋を持つか、Eleven+に合格するかなど

このコホート調査を10年事に再開する。紹介ページは；

<https://tribesman.net/CohortBirth.html>

以下はその一文；「出生」コホートなる分野がある。特定の年、週を選び、その期間に「出生」した（原則全員の）子の生を追いかける。英国が先鞭をつけ、後に欧州各国、アメリカ調査にも普及した。回数（英国では10年置いて5回、7万人を巻き込む）、規模の大きさでは英国が抜きんでている。嚆矢は1946年、3月の第一週に英国（正しくはUK）で生まれた子、全員を集団にくくった、出生時期を共通要素にした。対象者は1万7千人あまり。生まれたときの家庭環境、

この文の後にルソーを引用する。「人間Les Hommes（定冠詞複数、人類が近いかも）を学ぶには、その一人一人を間近に見よ。人間性Humanité（定冠詞単数）は人から離れて見よ。まずは差異を捉える、それによって特性 propriétés が把握できる」

上文のルソー引用の意味、人類を知るには人々を間近に見よ（差異＝同時性の観察）。その観察を土台にして人を離れて見る。人性（特性＝経時性の付加）が把握できる。レヴィストロースの説く「共時の逸話」「経時の逸話」と対比できる。

（レヴィストロースは論を決める時に多くルソーを引用する。博覧強記ぶりが伺えるが、同時に「ルソーも言っとる、ドヤ！」顔が彷彿とする）

- 1 神の弁証法に人（分析理性、思弁）を介在させた
- 2 人の思弁（*intériorisation*, *totalisation* など）と行為（*praxis*）、結果（*pratico-interne*）は歴史必然と結びられている（*sérialité pure*）。硬直した歴史を主張した
- 3 マルクス（唯物）弁証法とヘーゲル（思弁）弁証法を、実存主義の論理で結びつけた。
- 4 レヴィストロースは「*raison dialectique*」を「*raison analytique*」の思考で説明していると否定した（両者は全く噛み合いません）

野生の思考

La Pensée Sauvage

歴史と弁証法

Histoire et Dialectique

II 了